

## 2023年度 小委員会活動成果報告

(2024年1月30日作成)

|                           |   |   |
|---------------------------|---|---|
| 小委員会名                     | ゼロウォータービルディングのモデリング小委員会   | 主査名：小瀬博之<br>就任年月：2023年4月  |
| 所属本委員会<br>(所属運営委員会)       | 環境工学委員会<br>(水環境運営委員会)   | 委員長名：大岡龍三<br>主査名：笠井利浩   |
| 設置期間                      | 2023年4月 ～ 2025年3月   |   |
| 設置目的<br>各年度活動計画<br>(箇条書き) | <p>2019年度から2022年度まで4年間設置されたゼロウォータービルディング評価手法検討小委員会で検討された研究成果をふまえ、ゼロウォータービルディングの考え方についてコンセンサスを得ることを目的とする。国内外の関係法令や基準、建物やシステムの事例を収集してゼロウォータービルディングに対する動向を把握するとともに、建物における取水、給水、水使用、排水、水処理をシステムとしてとらえた場合のさまざまなバリエーションを整理してゼロウォータービルディングの考え方をまとめ、あらゆるケースに適用できるようにする。</p> <p>初年度：国内外の関係法令や基準、建物やシステムの事例を収集してゼロウォータービルディングに対する動向を把握する。建物における取水、給水、水使用、排水、水処理をシステムとしてとらえた場合のさまざまなバリエーションを整理して図化し、試算を行う。</p> <p>2年度：ゼロウォータービルディングの考え方をまとめてシンポジウムを開催し、コンセンサスを得る。ゼロウォータービルディングの考え方をまとめて意見表明する。</p> |   |
| 委員構成<br>(委員名(所属))         | <p>委員公募の有無：有</p> <p>主査：小瀬博之(東洋大学)<br/>幹事：中野民雄(静岡文化芸術大学)<br/>委員：青井健史(日建設計)、浅野良晴(信州大学)、石神諒(ベターリビング)、栗原隆(清水建設)、宋城基(広島工業大学)、西川豊宏(工学院大学)、牧道太郎(LIXIL)</p>   |   |
| 設置WG                      |   |   |
| 2023年度予算                  | 50,000円   | ホームページ公開の有無：有<br>委員会HPアドレス： <a href="http://news-sv.ajj.or.jp/kankyo/s21/water/">http://news-sv.ajj.or.jp/kankyo/s21/water/</a> |

| 項目  | 自己評価   |
|---|--|
| 委員会開催数                                    | 6回(年度内計画を含む)   |
| 刊行物<br>(シンポジウム資料を除く)                      |  |
| 講習会                                       |  |
| 催し物<br>(シンポジウム・セミナー等)<br>*能力開発支援事業委員会承認企画 |  |
| 大会研究集会                                    |  |
| 対外的意見表明・パブリックコメント等                        |  |
| 目標の達成度<br>(当初の活動計画と得られた成果との関係)            | <p>1. 国内外の関係法令や基準、建物やシステムの事例を収集してゼロウォータービルディングに対する動向を把握できた。</p> <p>2. 建物における取水、給水、水使用、排水、水処理をシステムとしてとらえた場合のさまざまなバリエーションを整理して図化、試算を行うことができた。</p>        |
| 委員会活動の問題点・課題                              | <p>1. 環境側面に加えてレジリエンス、カーボンニュートラルの側面からもゼロウォーターの概念を検討して包含すること。</p> <p>2. 建物単体でのゼロウォーターのみならず、地区単位でのゼロウォーターを検討すること。</p> <p>3. 意見表明に向けて公表形式や公表方法を検討すること。</p> |

\*小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。

\*中間年度には中間評価を、最終年度には最終評価としての自己評価を記入すること。

環境工学委員会用 自己評価欄

## 2023年度 小委員会活動 自己評価

### (中間年度評価)

| 総合評価<br>(4段階評価)                 | A   |
|---------------------------------|---|
| 総合評価に関する<br>自由記述欄<br>(理由、特記事項等) | <p>2019～2022 年度に設置された「ゼロウォータービルディング評価手法検討小委員会」の活動成果を受けて設置された本小委員会では、国内外の関係法令や基準、建物やシステムの事例を収集してゼロウォータービルディングに対する動向を引き続き把握している。</p> <p>過疎化や経済的な要因で、将来的には現在の水道インフラの維持が困難になってくること、震災・水害時の水道の途絶した状態での生活用水の維持、2050年カーボンニュートラルの実現における建物や地区における水利用のあり方など、長期的に見てゼロウォーターの概念の普及が望まれる。</p> <p>現在、日本建築学会環境基準として「雨水活用建築ガイドライン」や「雨水活用技術規準」が発行されたり、小規模自立型水循環システムが開発されたり、空気から水を取り出すシステムが開発されたり、「LEED Zero Water」が認知されて取り組む事例が現れるなどしているものの、これまでに築かれた水道、下水道等の水インフラの現状では、日本政府や地方自治体の動向としてゼロウォーターに対しては推進の動きは見られない。</p> <p>日本建築学会としては、建築における生活や事業の視点から、水システムの将来のあり方を追求し、その成果を情報発信して普及に努める必要があり、委員間で現在の動向を把握しつつ、日本における「ゼロウォーター」のあり方や学会としてのスタンスについて議論を重ねてきている。</p> <p>この1年間で予定通り6回の委員会を開催し、十分な議論を重ねてきているので総合評価を「A」とした。</p> |

●総合評価は4段階 (A>B>C>D) にて、自己評価すること。

●中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。

A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度

B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から80%の達成度

C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から70%の達成度

D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度

●小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価（シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など）に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。